

# らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

「一次落ちは日本語になってないゴミクズ」という認識はダメ、ゼツタイ。

ネットでその手の発言をする人は、荒らし目的でわざと言ってるとは思いますが、もし本気でそう信じているとしたら、そんな間違った考えは今すぐ捨てちまいな！

だって、ねえ？

どう見ても日本語になっている自信作が一次落ちすることって、普通にありますよね？

しかしそういう自分も、今だから言えることですが、昔は小説投稿をナメてました。

『一次落ちしちゃうとか、心底恥ずかしいよねー。

小学生の作文レベルの幼稚な作品を、最高傑作だと思って送ったんでしょ？

え、そういう自分の作品はどうなのか、って？

ってか、一次落ちとかあり得ないし、マジ受賞するに決まってるし』

最初は正直、こう考えてました↑

しかし、投稿を続けるにつれ、それが途方もない思い上がりであることに気がきました。

できることなら、当時の自分を校舎裏へ呼び出して、右ストレートを喰らわせたかったです。

まあつまり、何が一番言いたいかというと、小説投稿を真剣にやっていたら「一次落ちはゴミクズ」なんて考えはすぐに消えるはず。

真顔でそんなことを言っちゃう人は、投稿経験がない、もしくは浅い人だと思うわけです。

まあ、ね。

「オレ真剣に小説投稿してるけど、一次落ちしたこと一度もないよ」って人がいたら、返せる言葉は一言もないですけど。

とにかく、一次落ちは決してゴミなんかじゃない！

誰に非難されようが、評価シートで酷評されようが、自分はそう信じていたいんです。

当ブログ「らくだ図書館」は、おかげさまで、開設 8 か月を迎えました。

なんか最近うっすらと思うんですが、自分はこのまま永遠にデビューできず、こうして投稿ブログを毎日更新しながら、むなしく一生を終えるのでは……。

はっ、いかん！

縁起でもないことを言ってしまった！

まあしかし、実際にそうなったら、それはそれで偉業ですよ。

小説投稿歴：63 年

総投稿回数：1,023 回

最高成績：電撃大賞 2 次通過

みたい。

偉業というか、そこまでいくと、もはや異形だな。

デビューしたいという怨念にとりつかれた、妖怪ワナビ。

……………。

なんか、毎回こんなことばかり書いてるけど、別にいいんです。

自分はピエロだから、みんなが笑ってくれるなら、それだけで幸せです。

え？

誰も笑ってないって？

それなら、「冷笑」でも「失笑」でも構わないよ……！（捨て身）

まあそんな感じで、迷走っぷりがひどいブログですが、今後もよろしくお願ひします。

「いたばし国際絵本翻訳大賞」の応募要項が発表されました。

今年は去年よりも進行が早いようで、エントリーの締切りが10月31日で、応募作品の締切りが11月30日。

ちょっと、やだー。

11月30日って、GAの締切りと一緒じゃないですかー。

というわけで、今年は並行して進めるぞ。

外国絵本の翻訳とGA用の少年系ラノベって、だいぶ方向性が違いますが、さくせん「いろいろやろうぜ」で頑張ります。

それにしても、今年はどういう話なんでしょうねえ。

応募要項の短い説明を見るに、何やらサルデーニャ島が舞台らしく、表紙も自分の好きなテイストなので、課題図書を読むのが楽しみです。

ニューヨークからサルデーニャ島へ行くみたいだから、主人公が旅先でスローライフに目覚める系統の話かなあ。

いいですよねー。

その手の話、大好きです。

というわけで、さっそく申込ハガキを出してきたので、返信が着き次第エントリーする予定。

秋は一年の中でもっとも執筆がはかどる季節なので（自分調べ）、毎年送っている賞にも、初めて送る単発の賞にも、意欲的にチャレンジしようと思います。

地上アナログ放送は 2011 年 7 月をもって終了したわけですが、我が部屋のテレビは何も対策をとっておらず、1 年と 2 か月間テレビが見られない状態が続いております。

うん……。

そろそろ、デジタルチューナーを買おうか……。

まあ別に、どうしても見たい番組はリビングで見るからいいんですが、秋以降は見たい番組が一気に増える予定なので、この機に BD レコーダーを買おうと思います。

ってか、ふと周囲を見回すと、この部屋の電化製品はひどすぎる。

- ・何もうつらないアナログテレビ
- ・画面が突然ブラックアウトする PC
- ・A ボタンの壊れたニンテンドー DS
- ・入れたディスクが綿まみれになる PSX
- ・画面の下半分が表示されない電子辞書

もうね……。

何を捨てて、何を修理して、何を買い替えたらいいのやら……。

ただ、アナログテレビ以外は、不便ながらも使えているので、本当に壊れるまでは使おうと思います。

今買うのを我慢すれば、来年はさらにいい製品が出るはずだ……！（昭和の発想）

とまあ、そういうわけで。

誰も待ってないと思いますが、地デジ化が無事に完了したら、ここで報告します。

今日は以上ですが、時代の最先端を一周遅れで追いかける「らくだ図書館」を、今後もよろしくお願い致します。

常木らくだのワナビ生活をカーレースに例えると、たぶんこんな感じ。

1. スタートダッシュで先頭を奪う。
2. 左に曲がろうと思って逆ハンを切った瞬間、「ゴールは右だよ！」と言われて、そのままフルアクセルで壁に激突。
3. その間に、後続車に抜かされまくる。
4. 再度走り始めたら、周囲にたくさん車があるので、ひとまず安心する。
5. しかしよく見たら、自分だけ一周遅れだった！

……今5番の状態なんですけど、どうしたらいいですか？（知るか）

とはいえ、そんな自分は嫌いじゃないから、リセットボタンは押しません。

皆様は、いかがでしょう？

投稿を始めた頃に戻って、一からやり直せるとしたら、リセットを選択しますか？

もし自分だったら、戻りたくないなあ。

最初は勝手がわからなくて、無駄なことをたくさんした。

今となっては「その設定じゃ絶対に落ちるよ？」と思うような作品も、がむしゃらに真剣に書いてた。

でも、リセットは選択しない。

そうやって得た教訓や、そうやって完成した作品は、いまや自分の財産ですから。

だから、もし四年前に戻れたとしても、同じ作品を同じように書くと思います。

そんなこんなで、今日はリセットボタンの話でした。

皆様はいかがでしょう？

リセットなんてしたくないですよね？

ようやく次の作品が決まって、冒頭部分を書き始めました。

最近のラノベを見ると、「特殊な存在（特殊な性格）のヒロイン&巻き込まれ型の平凡な主人公」が鉄板のように思えますが、今回はあえて自分の趣味を優先して、逆のパターンで書いてみようと思います。

逆のパターン。

つまり、「変な性格の主人公&マトモなヒロイン」。

ちなみに、以前その路線で書いた時は、「感情移入しにくい」と言われました。

あ、あれ？

自分はすごく感情移入できて、ノリノリで書いたんだけど？

それってつまり、オイラの性格がおかしいってことか???

まあでも、毎回無難にまとめていても、書いていて退屈ですもんね。

だからたまには、需要がないとわかっていても、趣味に走った作品を書きたいんです。

ちなみに、自分が今まで書いた中では、

手堅くまとめた作品：「CR 松竹梅」「インキュラブ」

ふざけて書いた作品：「激烈ワナビ戦」「好きです、ザビエル様っ！」

他の作品はその中間くらいですが、直近（7月）に書いた話が王道ラノベだったので、今回は思いっきり自分の趣味に走ろうと思います。

趣味に走ると何が楽しいって、自分のテンションが上がる点ですよ！

まあそれに比例して、一次落ちするリスクも確実に高まるんですけど！

そうは言っても、一次落ちを恐れていたら何も書けなくなってしまうので、変な性格の暴走主人公と今後しばらく付き合おうと思います。

たとえ結果が一次落ちだとわかっているけど、その作品をなかったことにはしたくないから、過去に戻っても同じ作品を書くと思う。

そんな風に、首傾げて「なんで？」とか聞くなよ。  
すっ……、好きだからに決まってるだろ！（赤面）

以上、自分の作品にデレてみました。

まあでも、上の前置きはともかく、自分の作品が好きであることは大切ですよね。  
この話、もう何回も書いてるけど、何回も書きたいくらい本当にそう思うんです。

以前は一次落ちするたびに、「この作品って魅力ないんだ……」と思って、自分の書いた作品を嫌いになってしまっていた。

でも。

「過去に戻れたら違う作品を書くのか？」って聞かれたら、絶対にそんなことはせず、同じ作品を同じように書くと思うんですよね。

それはやっぱり、「好きだから」って理由で、その作品に存在して欲しいから。

長く投稿生活を続ける中で、学んだことは一つや二つじゃありませんが、一番変わったのはその部分だと思います。

一次落ちするたびに、自分の作品を嫌いになるのは、悲しいことだからやめよう！

ってか、一次落ちする度にその作風を捨てていたら、書けるものなくなりますよ……。  
それっくらい、たぶん周りが引くくらい、自分はものすごい回数一次落ちしてる……。

まあでも、それでも楽しいと感じるから、やめないんですけどね。  
そしてこれから先も、たぶんずっとやめられないんだと思います。

本日、えんための評価シートが届きました。  
去年同様、A4サイズのゆうメール（折曲厳禁）でした。

そして、気になるタイトルですが、

★第14回え	
作品No.	529
作品名	貞淑サディスト

ちょっ！  
そんな作品、書いてないよ！？

というわけで、想像した通り、間違ったタイトルで届きました。

たぶんコレ、最初にデータ入力する時に間違っただらうなあ……。  
そうなるともう、先方は気づきようがないですもんね……。

そして衝撃的なのが、コメントのこの一文↓  
「タイトルはまあ妥当なところ」

いや！  
もう一度言うけど、そんな作品書いてないから！

なんかもうねー……。  
えんため、面白いわ。

肝心の選評の内容については、自分が想像した通りの点を指摘されて、そしてその欠点はもう改善できている自信があるので、次回の応募が楽しみになりました。

まだかなり先ですが、次回はタイトルを間違われたいことを目標にしたいです。

昨日の晩、執筆中の作品の1シーンがすごく明確に浮かんできて、「うおおー、今すぐ書きたい！」って状態になったんですね。

でもすでに深夜2時過ぎで、さすがにPCを立ち上げる気力はなかったので、「早く書きたい」と思いながら眠ったわけです。

そしたら。

早く書きたいと思いついで、朝の5時に目が覚めました。

お前は、遠足が楽しみで眠れない小学生か！

まあ、5時に起きて書きましたけれど、おかげで目の下にすっごいクマができました。

ばっちこい！

クマはワナビの勲章だから、むしろ誇らしい気分だぜい！

まあ、常木らくだの目にクマができたことはどうでもいい情報ですが、執筆のために早起きできる自分にかなり本気でビビりました。

それで、思ったんです。

こんなに執筆が好きなんだから、やめるなんて不可能だなあー、と。

何度一次落ちしても、僕は死にましえーん！！

101回目のマジ投稿。

余計なものなどないよね？

で、まあそれはいいんですが、とにかく何度落ちてもやめられないんだから、焦らず騒がずこれからも地道に書いていこうと思いました。

それにしても、主人公を変人にしたら普段よりも執筆速度が上がるのは、自分が変人な証拠でしょうか……。

本日、電撃三次&四次発表がありました。

うん……。

来年、また頑張るよ……。

まあでも、自分にとっては二次通過できたこと自体が望外の出来事だったので、悲しい気持ちは不思議とまったくないんだぜコンチクショー！（←悲しんでる）

いや、でも真面目な話、嬉しい気持ちが大きいのは本当のこと。

思えば、電撃4度目の挑戦にしてやっと二次の壁を越えられたので、次は三次の壁をこの胸のドリルで天元突破したいです。

ただし、たった一つだけ願うことが。

通過発表や評価シートを目にできるタイミングが、あと少しだけ、もうほんの少しだけでいいから、今より早ければいいのになあ、と。

というのも、評価シートを読む時点では、それはもう過去の作品なんですよ。

実際のところ、今三次落ちした作品は今年の1月に書きましたが、7月に書いた作品や今まさに書いている作品は、1月に書いた作品の弱点を克服できているという自信があるんです。

その気持ちは「振られたのは過去の自分であって今の自分ではない」という慰め材料にもなるんですが、「今の自分はそんな理由で振られる存在ではない」という強い憤りにも変化しうる。

そう思ったこと、小説投稿をしている中で、皆様はありますか？

出版社の方々は途方もないスケジュールで仕事をこなしていると聞くと、世界が自分を中心に回っているわけではないことも十分に知っているのに、これは冴えないワナビの戯れ言に過ぎないんですが、「結果をもう少し早く知ることができたら、今よりずっと小回りがきくのにな」というのは、4年前から現在に至るまでずっと感じ続けていることです。

という長文を書きつつ、今日のブログは以上です。

来年こそは、負っけないぞー！

3DS のバーチャルコンソールで「レッキングクルー」配信とか、胸熱すぎる。

いやあ。

あの頃のゲームは、今にして思うと、鬼のように難しかった。

似た系統の「ロードランナー」もそうだったけど、左右から敵に挟まれると、当たることがわかっているけど逃げようがないんですよね。

爽快感は、はっきり言ってゼロ。

やればやるほど、ストレスがたまる。

でも何故か投げ出さずに、頑張っただけプレイしていた。

今振り返ると、自分の忍耐力（それほどないけど）の大部分は、80年代のファミコンゲームで培われたような気がします。

そんなこんなで、レッキングクルーの話はこれくらいにして、小説投稿の話。

とりあえず9月の予定ですが、意気込んでいたルルルには結局出せそうにないので、今月は投稿予定がありません。

その代わりに、スーパーダッシュとGAに、複数投稿する予定。

ラノベ以外のところでは、旅のノンフィクションはすでに投稿完了していて、あとは「いたばし絵本」の翻訳作業を並行して進めていく感じです。

そんなわけで秋は忙しくなりそうですが、まあでも送りたい賞がたくさんあるのは、投稿者として幸せなことですね。

今日もこうして、文章を書ける。

そのことへの感謝の気持ちを忘れずに、一つ一つ丁寧に仕上げていきたいです。

たとえば、川底を描写したいとします。

どんな様子か覗き込んだ時、黄色い濁流が流れていれば、川底の様子がまったくわかりません。

見えないから想像するしかないし、手探りで触りたくても、つつい臆病になってしまいますよね。

川の深さもわからない。

底にガラス片が落ちていて、手を怪我するかもしれない。

だからこそ、川底を完全に知ることはできず、細かい部分が曖昧になってしまう。

逆に、流れが完全に澄みきっていて、透明な状態だったらどうでしょう？

一目見ただけで川底の状態が完全にわかるから、すんなりと描写できるし、触れたければ触れることもできますよね。

深さだってわかるし、底にガラス片がないこともわかるから、安心して触れられる。

なんか思ったんですけど、小説書きって、そういうことじゃないかと。

川底はストーリーで、水の流れは精神状態。

つまり、ストーリーは常に自分の心の中にあるんだけど、精神状態が荒れていると、手を伸ばしてもそこに届かないんですよね。

そういう時は、やみくもに濁流に手を突っ込むのではなく、水を透明にする努力をした方がいいと思います。

具体的に言うと、何も書けなくなった時は、何時間も机の前に座っているんじゃなく、近所の公園に行って「自分は何のためにその作品を書きたいのか」を考えてみる。

そうすると、濁った水が徐々に澄んできて、自分の心に近付けるんじゃないかと。

という、よくわからない抽象論を書きつつ、今日のブログは以上です。

いずれにせよ、文章を書く上で、自分の精神状態はすごく重要ですよね。

えんための評価シートで「ヒロインはそれなりに魅力的ではあるが、それ以外に読者を惹きつける要素がない」と言われました。

そ、そうですか……。

それなり、ですか……。

なんか微妙に傷付いてしまう文章ではありますが、しかしこの一文は、自分にとってすごくありがたい一言でした。

そもそも自分は、最初はストーリー優先で、小説を書いていたんですよね。

そうしたら、「キャラクターの魅力が乏しく、最近のラノベっぽくない」と言われてしまったので、あえて逆の物を書いてみたわけです。

つまり、ストーリーなんてあってないようなもので、ヒロインのかわいさだけで成り立っている作品を書いたわけです。

ほら、読めよ？

最近のラノベって、コレでいいんだろ？

そんな姿勢で投稿した結果、上の指摘をもらったので、やっぱりそうだよなと思いました。

あの作品は、ヒロインの魅力を取ったら、何も残らない話だったからなあ……。

まあもちろん、キャラが魅力的なのはラノベの必須要件ですが、それを除いても読者を惹きつける要素がなければいけませんよね。

そんなわけで、

1. キャラが魅力的か
2. その魅力を取っても、作品として何か惹きつける部分はあるか

この2点を常に自分に尋ねつつ、小説を書いていこうと思いました。

今取り組んでいる作品が、非常にいい具合に進んでおります。

たぶんコレ、完成したら、今までで一番ハイクオリティな作品になるかも。  
ドラクエで言うと「会心の一撃」、ふしぎ発見で言うと「スーパーひとし君」。

まあ、でもね……。

そう思いながら投稿して、あえなく一次落ちした作品が、過去に何作あることか……。

自分の中での評価はともかく、投稿した作品が一次通過するかどうかは、送って見ないと本当にわかりませんよね。

結果を知った後に「〇〇だったから落ちた」と、落選の理由を後付けすることは簡単なんですけど、送ってみるまではやっぱり結果ってわからないわけで。

まあでも今回の話に限っては、賞の結果に関係なく、好きだと言える自信があります。

そんなわけで、まだ半分以下しか書けていませんが、その作品を早く紙状態で読むためにも、頑張って書き上げたいところです。

ちなみに完成した作品って、皆様はどう扱ってますか？

自分は印刷して、クリアファイルに入れて、読み返してます。

書いた直後だと内容を覚えちゃってますが、一年くらい前の作品を読むと、なかなか色んな意味で感動できますよ。

こう書くとバカっぽいけど、「うわー、こんな難しい場面描写して、一年前の自分すげえなー！」みたいな感動（笑）

自分が小説を書く理由は、もちろん「デビューしたいから」なんですが、「自分で自分の話が読みたいから」というのも、実は結構大きいかもしれません。

今書いている作品の資料本を探そうと思って、地元の図書館へ行って見たけど、適当な本が見つからず手ぶらで帰宅するの巻。

うーん……。

府立図書館へ行くしかないかな……。

行くこと自体は構わないけど、東大阪って微妙に遠いんだよな……。

まあでも、適当に書くわけにもいかないので、探しに行くしかないですよ。

やっぱり、ほら。

リアリティって、ものすごく大事じゃないですか。

小説って結局は架空の物語なので、事実と多少違うことを書いても、「フィクションだから」「この世界ではそうなんだよ」で逃げられる部分がありますよね。

でもそうやって、都合のいい嘘をついていると、その作品の感動までもが嘘になる。

まあもちろん、フィクションである以上は根本的に嘘なんですけど、作品のクオリティを上げるためにはリアリティが必須だと。

前に某賞の評価シートで、「リアリティを出せば出すほど、読者は安心して、その世界の中に没入できる」と言われたことがあって、自分も本当にその通りだと思います。

まあね。

わかっているけどできていないから、毎度一次落ちの憂き目を見るわけですが。

とにかく、ネットで調べた情報だけでは満足できないので、近いうちに図書館へ行ってこようと思います。

そしてついに、地デジ化完了。

いやー。

地デジ化に1年2か月もかかるとか、たぶんデジサポもびっくりだわ。

それでまあ、テレビを買うかレコーダーを買うかチューナーを買うか迷ったんですが、結局のところブルーレイレコーダーを買いました。

それにしても、使いやすい！

ほんと、もうね。

ソニーにまったく恨みはないんですが、PSXが致命的に使いにくかったことだけは、声を大にして主張したい。

というのも、どっちつかずなんですよ。

ゲーム機能はPS2に負けてるし、録画機能はDVDレコーダーに負けてるし。

ファイナルファンタジーで言えば、ラスボス戦に赤魔道師4人で挑むみたいな、そんな「コレジャナイ！」感がありました。

まあとにかく、PSXをお払い箱にしてその場所にBDレコーダーを置いたので、これでテレビを見たり録画したりできるようになりました。

しかし、テレビが13型（おまけに4:3）なので、番組表の文字がつぶれるっていう……。

だから結局、予約録画したい時は、新聞のテレビ欄と照らし合わせるっていう……。

ア・ナ・ロ・グ！

まあそんな感じですが、とりあえず地デジ化は済んだので、次は突然ブラックアウトするPCをどうにかしたいと思います。

いたばし絵本の課題到着。

去年は佐川急便だったけど、今年は何故かレターパックでした。

そして！

パラッと見てみたけど、かなりいい感じです！

さすがにサルデーニャ島が舞台だけあって、どのページも「ザ・地中海」な雰囲気には溢れていて、絵を見ているだけで何となく幸せな気分になれます。

っていうか、いたばし絵本の課題って、絵本でありながら子供向けではないんですよね。

もちろん子供が読んでもいいんですけど、どっちかというところ、お洒落な大人がコレクションするような。

そんなこんなですが、クマが季節ごとに変身する去年の話よりも、何となく感性が合いそうなので、頑張って訳してみようと思います。

あと余談ですが、エントリー用紙に「ペンネーム」の欄があるんですが……。

えっ？

去年はペンネームの欄なんてなかったよね？

もしかすると、欄が追加されたってことは、問い合わせた人がいたんでしょうか？

もしそうなら、問い合わせた人ありがとう！

せっかく欄があるからには、「常木らくだ」で出しちゃうぜ！

いや、でも、ちょっと恥ずかしいな……。

受け取った人に「何この人？ 名前がらくだとか、ふざけてんの？」って思われそう。

まあとにかく、今書いている作品が終わり次第、いたばし翻訳に取り組みようと思います。

今日は久々に、ドラクエ語りを。

ドラクエ10 旋風が全国に吹き荒れるこの夏、Wiiを持っていない自分は9を再プレイしたんですが、クリア後のWiFi追加要素があんなに多いとは……！

「この場所なんなの？」状態だった場所や、「これで終わり？」状態だった中途半端なエピソードが、ちゃんと綺麗に回収されていて、プレイしながら何度も「なるほどなー」とうなずきました。

なんか、アレですね。

エルギオスを撃破して9をやめるのは、ドラクエ3で言うと、バラモスを倒して冒険終了みたいな。

半分とまでは言わないまでも、4分の3しか終わっていない、そういう状態。

まあ宝の地図をやっていたらキリがないので、適当な場所でプレイを切り上げましたが、9は相当いい出来だったと思います。

シンボルエンカは、発売前は不安視されていましたが、結果的に大成功ですよ。

まあでも、自分がシリーズで一番好きなのは、圧倒的に8ですが。PSXを長年捨てなかったのも、ドラクエ8をプレイしたいからで。

とまあ、地デジ化に1年以上かかったり、発売から3年以上たった後にドラクエ9の感想を語ったり、世間の流れに完全についていけない常木らくだ。

今一番ホットなゲームは、レッキングクルーだと思いますが何か？

そんなこんなですが、小説執筆のセンスだけは時代遅れにならないように、日々修行を続けようと思います。

探していた資料本ですが、府立図書館へ行ったら、ちょうどいい本がありました。  
しかも一冊や二冊ではなく、棚一列全部がその資料でした。

ええなあー。

府立図書館、素敵やなあー。

そしてその資料を借りたら、司書のお姉さん、  
「返却は三週間後です。ありがとうございました！（ニコッ）」

あ、ありがとう？

買ったならともかく、図書館で本を借りるのって、感謝されることなのか？

まあとにかく、わざわざ足を運んだ甲斐がありました。

しかし、そこまで頑張って資料をゲットしたにも関わらず、そのシーンの描写は3枚で終わったんですが。

……………。

「想像だけでも書けたんじゃないね？」みたいな。

「東大阪まで返しに行くの面倒じゃね？」みたいな。

ま、まあ、いいですよ！

たぶんこれは、その作品を書こうと思わなければ調べなかったことなので、新たな知識が増えてよかった  
と思うことにします。

そんなこんなの、新作執筆。

たぶん今月中には終わるはずなので、最後まで気を抜かず頑張ろうと思います。

皆様は、原稿の印刷ってどの段階でしてますか？

自分は基本的に、完成するまでは印刷しない人間なんです（紙がもったいないですし）、今回は話の内容が複雑でややこしいので、いったん印刷して紙状態で見直ししようと思います。

いや。

話自体は、複雑でもないかな？

ストーリーラインは割とシンプルなんですが、主人公の過去が徐々に明かされる形になっているので、どこでどれだけの情報を放出しているか、書いてる自分が把握しきれてない状態というか。

まだ明かしていない過去の出来事について、主人公が「あの時は……」と語っていたり。

それとは逆に、同じ過去を二回も真剣に語っていて、「おじいちゃん、その話はもう聞いたよ？」みたいな状態になっていたり。

たぶんこれは、Word とにらめっこしていても修正できない問題なので、いったん紙に印刷して赤ペンを持ちながらチェックしていこうと思います。

それにしても、今回は本当に、スーパーひとし君な出来に仕上がりました！

まあね。

投稿前にあんまりそういうことを書くと、落ちた時余計に格好悪いんですけど。

とはいえ、「らくだの奴、あんなに自信满满だったのに落ちてるぜ」「ぶっ、あいつバカじゃねーの？」という嘲笑アクセスが増えるのも、DM 的には悪くないので、あえて自信のほどを書いておきます。

送り先は GA ですので、らくだの名前がなかったら、どうぞ笑いに来てください……！

そんなわけで（どんなわけだ）、完成まであとちょっと頑張ろうと思います。

きましたねー、「ラノベ作家になろう大賞」。

しかし、「もっとも楽にラノベ作家になれる新人賞？」というキャッチコピーはどうかと思うんですが……。

楽になれるって、それはウリなの？

そりゃ作家にはなりたいけど、なること自体が目的じゃないよね？

そんな斜に構えた気分になるのは、自分が幾多の一次落ちを経験してきた、落ちぶれ屈折ダメワナビだから。

という得意技の自虐はさておき、応募要項を確認したところ、だいたいこんなところでした。

【規定枚数】80枚～200枚（40字×34行）

【締切り】2013年1月8日

【発表】2013年4月 一次・二次発表は順次ある（かも）

【評価シート】希望者全員（要封筒）

- ・ 投稿は郵送でもメールでも可
- ・ 評価シートの発送は、最終発表後ではなく順次

……という感じ。

この要項を客観的に見ると、ウリはスーパーダッシュ並みに上限枚数が多い点、希望者全員に評価シートをくれる点、それから最終発表が三か月後でかなり早い点ですね。

この時期の少年系はこのラノくらいしかなく、そしてこのラノは自分にとって5作品が全滅した鬼門エリアなので、GA後期に送った後に力が残っていれば投稿したいな、と思います。

ANA のマイルが切れそうだけど、飛行機に乗る予定が特にない。

うーん、困ったな……。

名古屋に行く予定ならあるけど、大阪～名古屋って飛行機ないよな……。

そう思って調べてみたら、まあ当然といっちゃ当然ですが、そういう路線はありませんでした。

大阪から名古屋って、イメージ以上に近いですもんね。

新幹線なり、近鉄特急なり、高速バスなり、移動の選択肢も多いですし。

ちなみに、前に大阪市内でタクシーに乗った時、「今までお客さんを運んだ中で、一番遠かった目的地は名古屋」という運転手に出会ったことがあります。

驚いて詳しい話を聞いたところ、

「名古屋！？ 断ろうと思わなかったんですか？」

「まあ確かに、目的地が遠距離の場合は、乗車拒否してもいいんですけどね」

「じゃあ、どうして？」

「いやぁー、面白そうだったので。はっはっは」

おっちゃん、おもしろいなあ……。

名古屋へ行った理由は、「面白そうだったので」……。

そのお客さんはビジネスマン風の男性だったそうですが、さすがにそれだけの距離と一緒に移動すると、着いた頃には人間関係が出来上がっていきそうですね。

なんかこう、あいのりの「ラブワゴン」みたいな。

いつの間にやら、車内で芽生える恋心、みたいな。

まあとにかく、大阪～名古屋の飛行機はないようなので、大人しく新幹線で行こうと思います。

執筆中の作品を印刷して、紙状態で見直しするの巻。

それにしても、Word の状態ではゼロだと思っていた誤字脱字が、紙で読んだ途端に見つかるのは何故なんでしょうね……。

やっぱり、アレですかね。

自分は自分が書いた文章を知っているので、PC モニター上で作品を見返す時は、「脳」で読んでいる状態になっている。

それが紙になると、「目」で読んでいる状態になるので、間違いが見つかりやすくなる。

まあでも、印刷した直後はやっぱり脳で読んでしまう傾向があるので、本当は紙原稿を一か月ぐらい放置しておいて、内容を忘れた頃に読むと一番いいんだと思います。

そう。

それが理想なんです。

しかし実際は、一か月も余裕がある場合は少ないので、完成直後に送ることになってしまい、投稿し終わった後に誤字脱字を見つけて落ち込むっていう。

毎回そういうゴールデン・ルートを辿るわけですが、今回は GA まで二か月もあるので、細かい部分にまで気を使えそうです。

そして、来月何をすべきか、微妙に悩ましい感じ。

気合いでもう一本少年系を書くか、先にいたばし絵本に取り組むか。

まあでも、やることのない状態よりはずっといいので、どちらをするにしろ全力で取り組もうと思います。

いつも思うんですが、自分が投稿作業の中で一番好きなのは、作品を印刷する瞬間かもしれません。

「やっと執筆から解放されたー！」という喜びもあるんですが、それ以上に嬉しいのは、自分の書いたキャラがその瞬間に存在する状態になるという点。

存在する状態って、なんか意味わからないですが、どう言えばいいのか……。

そもそも小説を書く前は、そのキャラクターは、自分の脳内にしか存在しないじゃないですか。

それも常にずっと存在するわけじゃなく、自分が考えている瞬間しか存在しない。

しかし小説を完成させて印刷すると、そのキャラクターが自分の頭から離れて、文字の中に存在する状態になるわけです。

だからこそ、読めばいつでも会いに行ける、っていうね。

……………。

やっぱり意味わからない？

まあでも、アレですよ。

外見描写をただけでは、キャラクターは存在しない。

セリフを一つ言わせてただけでも、キャラクターは存在しない。

イラストの場合は、描けばキャラクターが存在するわけですが、文章でキャラクターを存在させるには、その作品を完成させるしかない。

そういう苦勞が報われる瞬間が、まさしく原稿を印刷する瞬間だなあ、と。

いや、まあ。

今日の記事は、気持ち悪いひとりごとだと思ってくださって結構です。

っていうか今日に限らず、毎回気持ち悪いひとりごとなんですけどね。

全力でパントマイムを演じて、力尽きて倒れる感じのブログ。

そんな「らくだ図書館」を、今後もよろしくお願いします。

小説投稿を長年続けるのは、なかなか苦痛なことで、楽なことではありません。

でもいったい、何が苦痛なの？

その点を真面目に考えてみたんですが、

- ・ 落選して（結果が出なくて）苦痛
- ・ 小説投稿という趣味を周囲に理解してもらえなくて苦痛

だいたいこの2点であって、小説を書くこと自体は、別に苦痛ではないよなあ、と。

もちろん「頭の中にはシーンがあるのに、うまい文章が書けなくてツライ」と思う時はありますが、執筆そのものを苦痛に感じたことって、思えば一度もないんですよね。

小説投稿をしている方は、おそらく皆そうですね？

文章を書くこと自体が苦痛なら、そもそも投稿なんてしないわけで。

つまり「結果が出なくて苦痛」というのは、周囲の評価に苦痛の原因があるわけで、執筆そのものは苦痛ではない（むしろ大好き！）ということに、今改めて気付いたわけです。

それなら、たとえ結果が出なくても、書き続ければいいんじゃないの？

ちょっと落選したくらいで、好きな気持ちを封印したら、絶対にもったいないよ。

そう考えて、自分を励ますっ……！

なんか、もうね。

「自信作が落選した際に気持ちを立て直す方法」というタイトルで、一冊本を書きたい。

まあでも、一次落ちした作品について、落ちた理由を考えたりして反省することは必要ですけど、自信を失って執筆をやめるようなことはしたくないと思います。

好きだから、小説を書く。

その根本は、失いたくないですよ。

9月に書いていた作品が、ついに最後まで完成しました。

これ……。

こんなに趣味に走って、正直平気なのかな……。

特に最後の章が、完全に主人公の「俺 TUEEE！」なので、その部分が心配です。

なんか、コレね。

主人公にちゃんと感情移入できれば、カタルシスが得られると思うんだけど。

逆にその章までに読者の心を掴み切れなかった場合、「何この主人公？ 超ウザイし、もういいし」と思われそうな、そんなしつこく濃厚な俺無双。

まあでも、これでいいや。

最近ヒロインに振り回される受動的な主人公ばかり書いていたので、ヒロインを押しつけてスポットライトに当たろうとする変人の主人公は、書いていてとても楽しかったです。

なんか、ね。

もちろんいつかは受賞したいけれど、こうやって執筆について真剣に考えて、小説を書いていただけることが、すでに限りなく幸せですよ。

だから自分は、この先何回落ちても、たぶん執筆をやめません。

それで5年後ぐらいに、「らくだの奴、まだ書いてんのかよ」、「アイツもういいよ、面白くないし」と言われたいです。

そんなスタンスで続いていく「らくだ図書館」を、今後もよろしくお願いします。(今日もそのまとめ)

文頭に空白を入力すると勝手にインデント処理される Word は心底ファックだと思う。

というわけで今回は、「.doc ⇒ .txt」の苦勞話を。

最近「データ同梱」「投稿は Web で」という賞が増えているので、書き上がった小説をテキストデータに変換する機会が多いんですが、これがもう大変なわけです。

インデントの件はワナビ初期の頃からわかっていたので、手動でスペースを入れているからいいんですが、なんと言っても手を焼くのは「ルビ」ですよね。

Word の文章を丸ごとコピーしてメモ帳に貼ると、後ろにカッコをつけて書き込んでくれるんですが、これがまた親切なのか不便なのか……。

一つの単語だと見なされなかった場合、「常木（つねき）」が、「常（つね）木（き）」になってたり。

最近テキストに変換することを見越して、いちいちルビ画面を出して単語をくっつけてますが、過去の作品だとそれができていないので、毎回本当に逃げ出したい気分になります。

まあでも、投稿が一番の趣味なので、頑張って手動で直すんですけどね。そして落選して、部屋の隅で泣き崩れるっていう、ゴールデン・ルート。

それでもまあ、長らく小説執筆を続けている中で、文字入力の手速は格段に速くなったので、その部分は素直にありがたいです。

うん、そうだ。

いつか夢破れて小説執筆をやめる日が来たら、「あれは少し長いタッチタイピングの練習だったんだ！」と思って、過去の投稿生活に意味を持たせようと思います。

投稿時の筆名って、皆様は固定ですか？

自分の場合、最初の頃は色々と変えていましたが、途中から考えるのが面倒になって、今はこの名前に固定しています。

というのも。

特に思い入れのない名前だと、評価シートを受け取った時に、「自分のだ」と思えないんですよね。

あとは、たびたび通過している投稿者さんを見ると、「〇〇さんすごいなあ、よし自分も頑張ろう」という気持ちになるので、自分も周囲にそう思ってもらえたらいいな、という理由で固定しているのもあります。

まあ、「すごい」と言われるほど上まで行けたことはないですが、それはそれで、「毎回一次止まりだけど投稿をやめない人」ということで。

なんかね。

風雲たけし城で言うと、「毎週登場するけど、最初の壁が越えられない人」みたいな。

「突然現れて華麗にデビュー！」という夢が叶わなかった今は、そういうポジションで芸を極めようと思います。

そしてここでも、何気なく昭和アピール。

いいじゃないかー！

昭和生まれで何が悪いんだよー！

そんなこんなで、昭和の忍耐力を発揮しつつ、らくだは今後も頑張ります。

それでは、また明日！

ちょっとした趣味の用事で、名古屋に行って参りました。

イエーイ、名古屋だぜー！

みそかつ食うぜ、みそかつー！

ということで、みそかつの老舗「矢場とん」へ行ったら、ちょうどお昼時だったせいか 20 分待ち。

仕方ない……。

急いでないし、並んで待とう……。

そう思って最後尾に並んだら、すかさず店員さんがやって来て、「お一人様ですか？ カウンターが空いていますので、店内へどうぞ！」

やったぜ！

スーパーずる抜かし！

しかし本当に、このみそかつは、脂身の部分がおいしいですね。

ほら。

スーパーで買ってきた安い肉だと、歯触りはブヨブヨで味もイマイチで、脂身の部分って残したくなるじゃないですか。

それとは反対に、「脂身こそ本命」と思えるほど、脂身がおいしいんです。

なんかもう、「この豚にいったい何が起こったの？」と聞きたくなるくらい。

とまあ、そんなこんなで。

別にみそかつを食べるために名古屋へ行ったわけではありませんが、おいしい一時を過ごすことができ幸せでした。

また名古屋へ行くことがあったら、今度はきしめんを食べようと思います。

「親バカ」という単語は、どちらかと言うと蔑称で、誉め言葉ではありませんよね。

自分の子供を、何度も「かわいい」と自慢してきて、正直ウザイ……。  
お前、もう少し空気読めよ……。

で、ちょっと考えてみたんですけど、どうして親バカが周囲に迷惑がられるかというと、「子供がかわいい」という自分の感情を、相手に押し付けようとしているから」じゃないかと。

ってことは、アレですよ。

ひたすら「かわいい」と自分の主観を叫ぶのではなく、何がかわいいかを具体的に説明すれば、少しは周囲の共感を得られると思うわけです。

たとえば、「運動会で転んで泣いちゃったけど、ちゃんと最後まで走り切った」とか。

その方が、「へえー、〇〇ちゃんってそういう子なんだ」と思ってもらえるし、ただひたすら「かわいい」と言い続けるよりも、相手に興味を持ってもらうことができますよね。

で、いつもの展開なんですけど、これは執筆にも言えることじゃないかと。

作者である以上、自分の書いたキャラがかわいく見えるのは、最初から当たり前。

かといって地の文に「かわいい」「格好いい」と書きまくると、読者にとっては、空気の読めない親バカに見えるんじゃないかと。

そうではなくて、運動会の例のように、「この子はこういう状況でこういう行動をするんだよ」というのを具体的に示した方が、より一層読み手に共感してもらえると、そのキャラを好きになってもらえると思うわけです。

まあ、こう書いている自分もできていないんですが、「自分が親バカになってないかどうか」は、執筆中常に注意しておいて損はないと思います。